

マイクロディベートを終えて

マイクロディベートを経験した生徒

みんなの意見の中には、びっくりするようなものもありました。メモすることはできたのですが、書くスピードが遅く、書きもらしてしまうところもありました。書く事柄を速く、また正確に記せるようにしたいです。

私たちは、今回「日本の中学校に給食は必要か」という論題でディベートをやりました。私は、このディベートで絶対に給食の方がいいと思っていました。その第1の理由は、「弁当だと家の人毎朝大変だから」です。毎日弁当だと、家の方は朝のんびりできなくなり、すごく忙しいと冷凍食品になったり、昨日の残り物が入っていたりと、ちょっとさびしい弁当になるんじゃないかと思ったからです。

しかし、原稿を書いているうちに弁当のよい点がだんだんと分かってきました。そしてディベートをやると友達が給食と弁当についてどんな意見をもっていたのかなどがよくわかり、ためになりました。

この経験を生かし、今度やるディベートに役立てていきたいと思います。

国語の時間に3人組でのディベートを行って、審判、肯定側、否定側のすべてを体験することができて良かったです。

その「良かった」には、もう一つ意味があります。それは、3つすべて体験したことによって、相手はどんなことを攻めてくるのかや攻められてからの対処の仕方を自分なりに考えることができたこと、そして、相手の発想の豊かさなどが分かりました。

給食、弁当の両方で勝つことはできたけれど、質問タイムで少し時間があまってしまうことがあったので、今度ディベートをするときは、時間が足りなくなるくらい質問できるようにしたいです。

モデルディベートでディベート・マッチのイメージをつかむ

マイクロディベートの次は、台本を読む形でモデルディベート「日本の中学校に制服は必要である」を行いました。台本によって進んでいくため、必要があれば進行を止め、ディベート・マッチへ向けて注意すべきことを説明することができました。

生徒は、ディベート・マッチへ向けて具体的なイメージをもつことができました。また、本番に向けての意欲づけとなりました。マイクロディベート、モデルディベートと段階を踏んできたせい、どのチームも本番のディベート・マッチへ向けて意欲的に準備を進めていました。